

伊豆諸島鳥島西方海域のリュウグウオキナエビスガイ

蟹江 康 光*

Entemnotrochus rumphii (Archaeogastropoda: Mollusca)
from the western waters of Torishima, Izu Islands

Yasumitsu KANIE*

A living Rumphius's slit shell, *Entemnotrochus rumphii* (SCHEPMAN), was collected from the waters 160 km west of Torishima, Izu Islands. This location (30°52'N, 138°42-43'E; 150 m depth, on the top of a seamount) is the easternmost record of the Rumphius's slit shell collected. The specimen was hooked up by a vertical longline for bottom fishes.

はじめに

リュウグウオキナエビスガイ *Entemnotrochus rumphii* (SCHEPMAN) は、オキナエビスガイ類のなかでも大形殻に成長する貝であり、殻の切れ込みが半周する程長い。また底面中央のへそ部は大きく開いた穴になっていて殻頂直下まで通じているなどの特徴がある。

今回、鳥島沖 (Fig. 1) でリュウグウオキナエビスガイの生き貝が釣り上げられた。当海域からのリュウグウオキナエビスガイの産出は最初 (蟹江, 印刷中) であり、また採集された時の情況が特異であるので、ここにいくらかの考察を加えて報告する。

この報告を作成するに当たって、資料を寄託された三浦市三崎港所属の第8若月丸の永塚清晴・永塚三郎両氏と資料の受理に協力された神奈川県水産試験場の諸氏に感謝する。

資 料

資料はリュウグウオキナエビスガイ 1 個体である。

産 地 30°52'N, 138°42'~43'E (鳥島西方約 160 km) の海域で、水深 150 m の海山の頂部

採 集 日 1986年 4月11日

採 集 船 第8若月丸 (三浦市三崎港)

採 集 法 底魚の縦縄釣りで、餌は冷凍イワシを使用

測定値

殻径 213.0 mm, 殻高 189.5 mm+, 最終螺環高 79.2 mm; 切れこみの総延長は 291 mm あり、殻の全周の 49.5% を占めている; 切れこみの幅は 2.0 mm。螺層は10階まで数えられるが、殻頂部は欠けており、その付近は溶解・腐食されているので、老成した個体と考えられる。

* 横須賀市自然博物館 Yokosuka City Museum, Yokosuka 238.

原稿受理 1986年10月1日. 横須賀市博物館業績第 346 号.

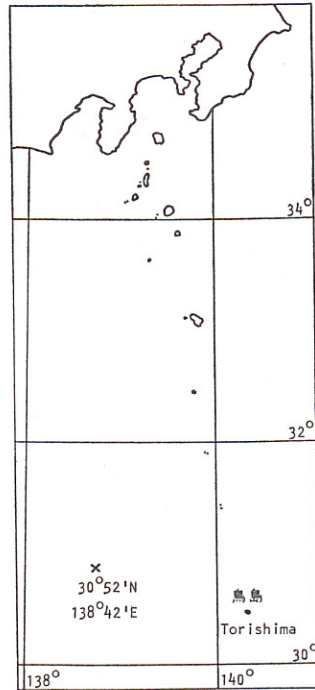


Fig. 1. Location of *Entemnotrochus rumphii* collected from off Torishima, Izu Islands.

殻重量は 650 g で、軟体部の重量は 460 g。

資料は横須賀市自然博物館に寄託・収納されている (受入番号 1986-20)。

採集法

本標本は釣り上げ法によって偶然に採集された。採集に使用した漁船には永塚清晴氏が乗船していたので、以下は永塚氏からの聞き取り資料と操業記録からの抜粋である。

漁船は採集時には「通称」海徳場と呼ばれている海山上の水面にいた。海山の周囲は水深 3000~4000 m の深海となっている。海山には水深約 130~150 m の平頂面と水深約 400 m の平頂面があったが、資料を収集した第 8 若月丸は水深 150 m の海底上で底魚操業を行っていた。主な漁獲物はキンメダイ・ヒメダイ・ハマダイ・サクラダイなどであり、これらの魚種を縦縄釣り(一匹掛釣り)法で操行中であった。釣り針は 2 寸 3 分 (約 7 cm) と呼ばれるものを使用し、餌は冷凍イワシを使用していた。海中から引き上げられたリュウグウオキナエビスガイは、殻の切れこみ部分にナイロン釣り糸が食い込んでいた。リュウグウオキナエビスガイは、釣り針が偶然軟体部に引っかかって、軟体部を殻内に引っこめたと推定できる。

本標本の意義

リュウグウオキナエビスガイの模式標本は、モルッカ諸島沖から採集され (SCHEPMAN, 1879), 本邦からは土佐沖の水深 170 尋 (約 270 m) よりはじめて報告された (黒田, 1936)。

その後、南シナ海・東シナ海・南西諸島沖からも知られるようになった。従ってここで報告する伊豆諸島鳥島沖からの産出は、リュウグウオキナエビスガイのもっとも東方からの産出記録といえる。

今回の標本は、前述のように水深 150 m の海山上でキンメダイなどの底魚を釣り上げ中に、偶然採集されたものである。オキナエビスガイ類の釣り上げ採集については、伝説的に伝えられる三浦市三崎の青木熊吉氏が釣り上げたオキナエビスガイの採集方法（池田，1985）ヤイカ釣り中に採集されたオキナエビスガイ（標本番号 YCM. ZH8296）の例と比較できる。

今回の採集標本からはリュウグウオキナエビスガイの自然生態を論じる資料はほとんどない。釣り上げられたリュウグウオキナエビスガイを船上での海水中に入れたところ白色の体液を放出したそうである。白色体液を粘液腺から出す例は、岩礁の間の粗粒砂上に生活するオキナエビスガイにも知られている（蟹江ほか，1986）ので、生態上興味深い。リュウグウオキナエビスガイと同定されたものは深海サンゴ上の生態写真（白井，1982）がある。永塚清晴氏によれば、キンメダイ類に混じって、稀に深海サンゴも採取されるそうである。

引用文献

- 池田尋紀 1985. オキナエビスガイの採集とメノウオキナエビス. みたまき, 相模貝類同好会会報, (17): 11-14.
- 蟹江康光 (印刷中) 伊豆諸島鳥島沖産リュウグウオキナエビス, ちりぼたん.
- ・杉浦暁裕・江川公明 1986. 相模灘産オキナエビスガイの海中における生態. 貝類雑, 45 (3): 127-137.
- 黒田徳米 1936. 新たに邦産として記録せられるオキナエビスガイ 1 種に就いて. 貝類雑, 6(4): 250-254.
- SCHEPMAN, M. M. 1879. Eine neue recent Pleurotomaria. *Tijdscher. Nederl. Dierk. Vereen.*, 4: 162-167.
- 白井祥平 1982. 世界初公開リュウグウオキナエビスの海中生態. ダイビングワールド, 8(4): 12-13.

Explanation of plate 2

1-5. *Entemnotrochus rumphii* (SCHEPMAN) collected from off Torishima, Izu Islands.

1-4. Apical (1), flank (2), umbilical (3) and apertural (4) views. 1/3 natural size. 5. operculum. 1/2 natural size.

